

令和3年度

第3回

関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日時： 令和3年12月21日（火）
14：30～16：30
場所： 東京都千代田区霞が関1-1-1
法曹会館 富士の間

次第

1 開 会

2 議 事

（1）木材の需給動向について

- ①木材の需給及び価格等の動向
- ②関東森林管理局における国有林材の供給状況
- ③各地域の木材需給動向について

（2）その他

3 閉 会

令和3年度 第3回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名	出 欠
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一	出席
福島県森林組合連合会 常務理事	遠藤 誠寿	出席
栃木県東環境森林事務所 森林部長	川上 晴代	出席
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業経営・政策研究領域 領域長	久保山 裕史	出席
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 廣興	出席
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子	欠席
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	佐藤 信聡	出席
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志	出席
有限会社平子商店 専務	平子 美穂子	出席
栃木県森林組合連合会 木材流通課 課長	福田 成芳	欠席

関東森林管理局(事務局)

官 職	氏 名	出 欠
森林整備部長	山口 輝文	出席
資源活用課長	森田 隆浩	出席
企画官(木材需給対策)	畠山 幸樹	出席
上席技術指導官(木材供給担当)	奥村 忠充	出席
素材供給係長	齋藤 悠	出席
供給計画係	濱砂 俊介	出席

(別紙)

令和3年度 第3回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 開催日時・場所

令和3年12月21日(火) 14:30~16:30

東京都千代田区霞が関1-1-1 法曹会館 富士の間

2 議題

(1) 各地域の木材需給動向

(2) その他

3 検討結果

各地域の木材需給の動向や各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、今後の供給調整について現時点では、新たな供給調整は必要ないが、各地の木材需給状況、市況等を引き続き注視し、大きな動きがあれば臨時的供給調整検討委員会を含めて対応されたい。

4 概要(状況報告等)

(1) 各地域の木材需給動向について

○ 原木は、荷動きが良く、出材量、販売量とも増加しているが、製材品は、荷動きは良いが販売量は増加していない。原木、製材品ともに高値を維持しているが、製材品より原木の引き合いが強い。

○ 原木の入荷は悪い状況が続いている。引き合いが強いことと品薄感が続いていることから、原木価格は上げ基調が続いている。製材品向け、合板向けとも需要は旺盛であり、在庫は低水準にある。製材品不足の状況は改善に至っていない。

○ 原木は例年より高値で取引されており、出材意欲が高く出荷は順調である。原木価格は11月下旬からは徐々に下げ始めている。合板不足の状況が改善しないことや新たな変異株の物流への影響の懸念もあり、先行きは見通せない。

○ 原木は高値で推移しており、素材生産業者の出材意欲も強い。製材品は高値で推移しているが、一部のG材、KD材で値が下がり始めている。今後の輸入材の入り具合と価格によっては、製材品価格は調整局面に突入する可能性がある。ただ、水害の影響でSPFが急騰し始めており、欧州材も高い状態が続いている。来年前半までは大幅な値下がりはないのではないか。

○ 原木は希望数量を確保することが難しい状況が続いており、価格も上昇を続けている。年明け2月頃までは今の状況が続くと推測している。国内針葉樹合板についても価格は上昇中である。

○ 木材市場における原木取扱量は昨年並みとなっており、入荷量も増えていない。杉原木価格は過去10年間で最も高く、桧原木価格は再び値を上げており、(令和3年)6月のピークを越えている。これ以上の高騰はないものの、しばらくは価格の大きな下落はないと考えている。いずれは、現状より下がるものの、円安傾向と国産材への回帰が続けば従来よりやや高値の傾向で推移していくものと考えている。

○ 原木の出荷量は増えており例年と比べても増加しているが、需要に対して供給量が追いつかず品不足の状況である。例年は12月頃から値段が下がるが、今のところ下がっていない。1月以降、さらに出荷量が増える見込みで、価格も徐々に下がると見ている。

- 伐出作業は順調だが、過去の台風被害に対する復旧工事の影響などから、材の運搬に支障がでている。原木価格は下がっておらず、強気に推移している。トラックや大型重機の経費について、燃料費をはじめとして徐々に値上がりの影響を受け始めている。ここにきて尿素不足の影響も見え始めている。
- 出荷量が計画量を上回る状態で、生産能力いっぱいの入荷状況が続いているようである。原木価格は、杉は弱気配があるが3m柱材で平均18,000円/m³、桧は横ばいで3m柱材で平均29,000円/m³となっている。
- 全国的に見れば、製材用の原木消費量は高水準であり、生産能力いっぱいの入荷が続いていると考えられる。杉原木価格は上昇が止まっているが高値が続いている。一方で合単板用原木価格の上昇が見られる。製材品の価格が10万円を超えているうちは原木価格も現在の価格を維持するのではないかと考える。
- 現在のような高水準の原木供給は必要であるが、今以上の供給は工場の加工能力を超えてしまう懸念がある。そうすると原木の価格低下を招きかねないため注意が必要である。

(2) その他

- 市場の安定化を図るためには、国有林材の安定的な供給が不可欠である。
- 国産材の安定供給には、サプライチェーンの再構築が必要である。
- 今回の輸入材不足に端を発したウッドショックは、国産材業界には奪われたシェアを取り戻す好機であったが、供給を増やせたのは2×4材や杉集成材などわずかであった。また国産材の安定供給能力が無いことを示すことになってしまった。今後、輸入材と同等の規格品（JAS材、KD材、ムク材）の生産を増やす必要がある。
- SDGs推進企業からFSC材へのアプローチが増えている。浜松市では、FSC材の利用を強力に進め、公共事業はFSC材を前提としており、住宅への補助もFSC材が必須となっている。このように認証材の利用を進める中で認証材が不足すると、その取り組みに水を差すことになる。オリンピックを契機に各地で認証取得が進んだが、その後止めるところも多いと聞く。国有林も量よりFSC材を出してほしい。
- FSCのような国際森林認証の取得は、今後の木材輸出や住宅輸出を考えると避けては通れない問題と考えている。地域で一丸となって取り組んでいる場所もあることから、国有林においても検討を進めて頂きたい。
- 山主側だけにFSC認証に関連する経費を負担させるのではなく、今後、工場側も協力して経費を負担するなど、地域全体として取り組める方法を模索することも必要ではないか。
- 民有林においては、皆伐した後の再生林の費用がかさむことから、皆伐の実施に対する意欲は高くない。鹿柵設置を含めた、造林に対する経費補助を手厚くして、皆伐の推進を進めている。
- 造林作業の中でも特に、下刈り作業の労働負荷が高い。開発の進んでいる機械はまだ改良の余地があると考えており、引き続き、下刈りの負担軽減や無人化などに向けた取り組みを早急に進める必要がある。